



クルマエビ

主な漁業と漁期

袋網・たきや：5月～10月

生態

クルマエビは、砂泥域の浅海に生息し、我が国を代表するエビとして知られています。

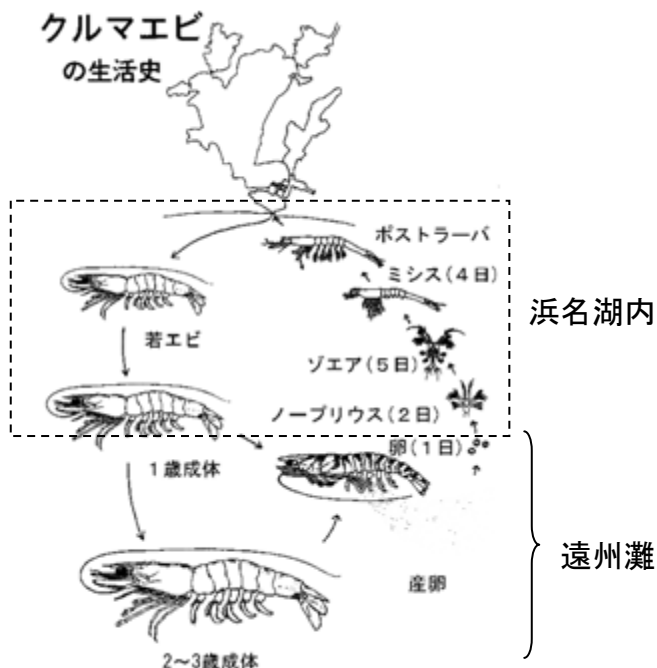
●分布・回遊

クルマエビの地理的分布は水温条件に影響され、北海道と東北太平洋沿岸の一部を除く地域で生息が可能です。

静岡県では、浜名湖において小型の未成熟のエビが、その周辺外海において大型の成体エビが生息しています。

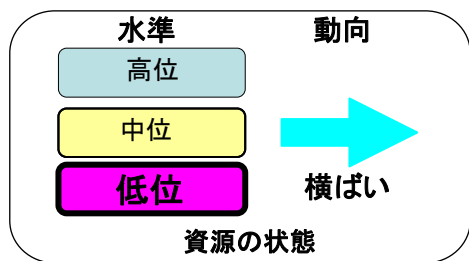
●成長・産卵

産卵場は西部遠州灘などの外海域です。産卵場から供給された浮遊幼生(図 ポストラーバなど)が、浜名湖口から湖内に流入し、浅所に着底して成長します。これらのエビは着底後1年を経ず、成熟前に外海に移出していきます。このように、浜名湖は伊勢湾・三河湾と並んでクルマエビの育成場ともなっています。



漁業・資源動向

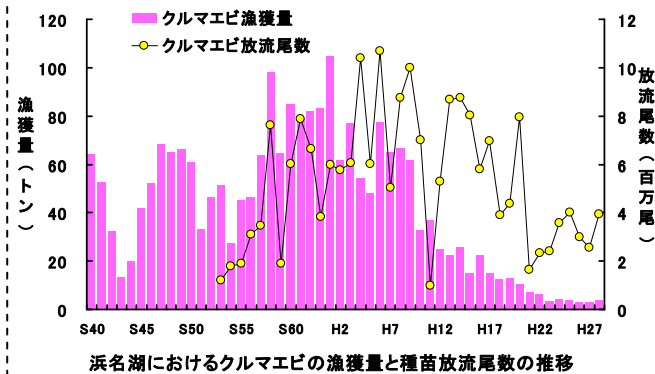
【資源】



- 1 浜名湖のクルマエビは、愛知県及び三重県海面で漁獲されるクルマエビと同一系群であると判断されています。
- 2 2016年の資源動向調査では、漁獲量が最も多い愛知県幡豆漁協におけるCPUE(kg/日・隻)の状況から、資源水準は低位、動向は横ばいと判断されています。

【漁業】

- 1 全国及び東海三県(静岡・愛知・三重)の漁獲量は、平成年間の初頭から一貫して減少する傾向で推移しています。
- 2 静岡県では、浜名湖内が漁場となっており、平成元年の105トン进行ピークとして減少が続き、平成23年以降は、5トンを下回って推移しています。



【栽培漁業】

- 1 人工的に生産したクルマエビ種苗を放流する栽培漁業が、全国で展開されています。
- 2 浜名湖においても、昭和50年代から放流が続けられていますが、平成10年以降は、放流効果が低減しているとみられ、漁獲量が減少しています。原因究明と効果的な放流方法について改善を図る必要があります。

《国の資源動向調査報告へのリンクはこちら》

http://abchan.fra.go.jp/resource_trends_report2016/index.html

担当者の一言：浜名湖のクルマエビの天ぷらはプリプリしていて最高に美味です。

問合せ先

静岡県水産技術研究所浜名湖分場 053-592-0139